

地域おこし協力隊活動報告会

2020年 久米島町

風の帰る森プロジェクト
(任期2018年2月～2021年1月)

上月 幸雄





目次

本日の概要

- ・ 任務の内容について
- ・ 移住した「きっかけ」
- ・ 取り組んできたコト
- ・ 任期を終えた今

心にある格言

未来とは、今である

- マーガレット・ミード



任務の内容について

風の帰る森プロジェクトの具現化

風の帰る森PJは2015年2月、東日本大震災にあった子ども達や心や身体にケアを必要とする子ども達が、自然の中で時間を忘れてゆったりと過ごすことができる場所を作ることを目的に発足した。

発起人（堀野富洋氏）が計画を発案し、それに賛同した友人である著名なアニメーション監督が、資金を支援してくださる形で拠点となる建物が銭田森林公園内に完成している。

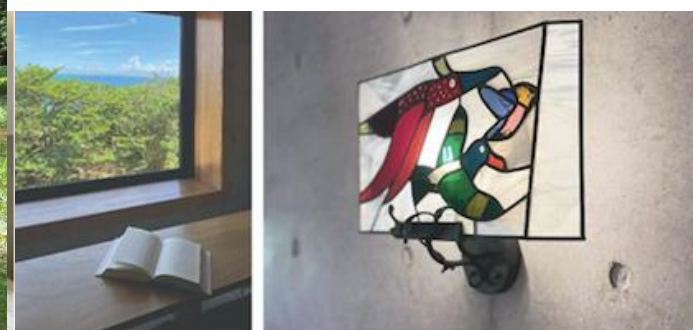
この建物を中心に「里山・里海づくり」に繋がる活動も行う壮大なプロジェクトである。

主な任務

スタートアップに向けて
建物で運営する事業計画から実施に
向けての準備、建物周辺の活用や地
域との関係構築などを担当し、今年
度からは稼働し始めた施設での業務
が主な任務となった。



建物の現在



福祉事業「風森学童クラブ」

久米島町で初めての放課後児童クラブ
である。今年度は、島内小学校6校から
35名が登所している。

宿泊＆物販「島宿・風の帰る森」

全4室、ゆったりとしたお部屋と絶景
のロケーションが自慢の中長期滞在向け
設備が整っている。

図書＆カフェ「風森文庫カフェ」

絵本や児童書を中心とした約5000冊
からなるスペシャルな文庫。

移住した「きっかけ」

2016年9月、初来島した時の出会い
そこでPJ構想を知り、志事となる可能性を感じて決断

広報くめじま 月報誌
島内への自己紹介、進捗報
告、告知などを掲載。
(写真は着任当時の記事)



FMくめじま 89.7MHz
ラジオ聴衆率90%という
オンリーワンの放送局で、
不定期に出演し、番組を通し
て情報発信。



取り組んできたこと

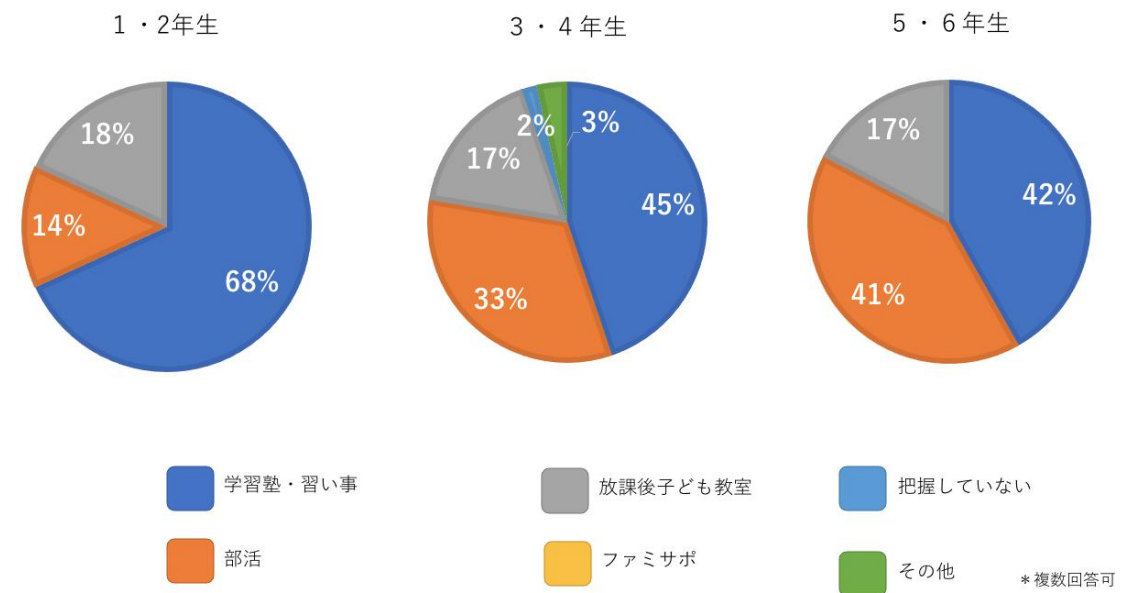
(実例 1)
島民とのミーティングを実施

着任当初、施設の建設が先行して肝心なソフト部分がハッキリと決まっていなかった。
その洗い出しを島内有志と一緒に共有し、骨格としてどうあれば良いのかを探った。

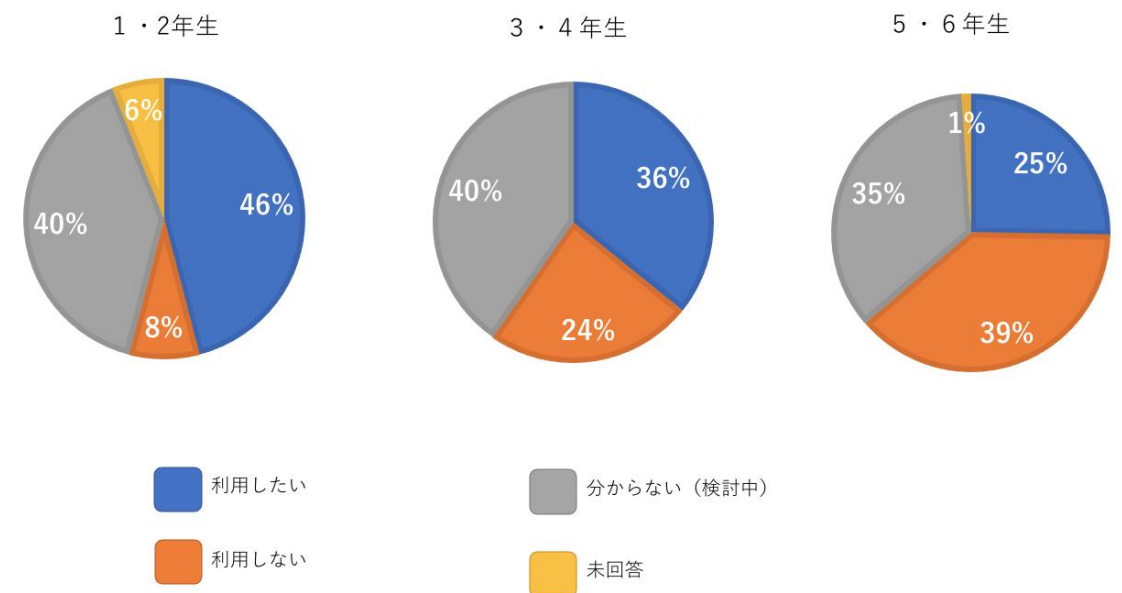
公民連携という意識もあったが、関係構築していくことの難しさも痛感。



現状 放課後の過ごし方（その他）



学童クラブ（放課後児童クラブ）の利用希望について



取り組んできたこと

（実例2） 放課後の過ごし方アンケートを実施

以前から島内では、放課後児童クラブへのニーズが高いとの声を聞き、2年に渡り実態をアンケート調査した結果、開所することで子どもの放課後を豊かにすることに繋がる可能性が大きいと判断し、あらゆる準備に取り組んだ。

2020年4月より久米島では初めてとなる学童クラブがスタートをきっている。

（＊現在、一般社団法人帰風舎が運営中）

久米島キッズケアラボ
2019.12/19-22
in 風の帰る森

主催
 一般社団法人 久米島の帰る森
 一般社団法人 Orange Kids' Care Lab.
 協力
 Kumajima Town 久米島町
 久米島町社会福祉協議会
 公立久米島病院
 CAPTAIN STAG

取り組んできたこと

(実例 3)

医療的ケア児の保養を実施 (世界初 !)

2019年12月、医療的ケアを要する子どもとその家族の旅行をサポートする「(一社)オレンジキッズケアラボ」と共催し、福井県と宮古島から医療スタッフを含む総勢20名ほどを受け入れた。民間企業などの協賛も実現した実例となった。





取り組んできたこと

(実例 4)
被災地の子どもたちの保養を実施

2020年1月、福島県伊達市の小学生から高校生と引率者を含めた総勢20名ほどを受け入れた。彼らは東日本大震災により被災し、心と身体のケアを必要としている。風の帰る森のコンセプトであり、今後も年に数回は機会を設けていく予定。



取り組んできたこと

(実例 5)
学童クラブの運営

2020年4月、コロナ禍が始まりだしたと同時に開所となり、わずか1週間で休所となる。再開後も色々なことに直面し、心が折れ疲弊した時期もあったが、仲間と共に奮い立たせながら乗り切ることができ、今に至る。

子ども達は、たくさんの本に触れ、豊かな自然の中で走り回り、乗馬体験やビーチクリーンなど地域や企業との関わりを作りながら、住んでいる里山・里海の原風景を体感している。



取り組んできたこと

(実例6) 地域活性化イベントの実施

施設が完成する前から、文庫を活用したイベントを不定期に開催。今年度10月からは定期開催とし、地域の方を講師に招いて、アガラサー作りや木工、クラフト、本の読み聞かせ等を通して、風の帰る森に触れてもらう機会とした。

今後も継続し、里山・里海づくりの一環として歴史や伝統文化の体験ができるコトを実施していく。

(※ 沖縄県地域振興協会の助成金も活用)

1回 はじめての風森体験～出会いと交流～
風森ってどんなところ？
鉄田森林公園の中にひっそりと佇む赤い屋根の建物が「風の帰る森交流施設」です。
周辺を木々に覆われたこの隠れ家のような空間にはたくさんの蔵書と、
どきどきわくわくが溢れています。
この機会に島民のみならずをご案内しますのでぜひご参加お待ちしております！

10 月 **16** 日 (金)
時間：9:00～11:30
人数：30名
参加費：大人 ¥500(ワンドリンク付)
小学生以下 ¥0 (大人1名につき2名まで)
参加方法：<https://www.kokuchpro.com/event/kazenokaerumori/>
またはQRコードから申し込みください

島民限定、事前予約制(当日受付不可)での開催となります。
当日は館内ツアーや読み聞かせも予定しております。
どきどきわくわくの風森をちょっとのぞいて見ませんか？

主催：一般社団法人風森会 事務局
問合せ：yoyaku@kazenokaerumori.com
後援：公益財団法人沖縄県地域振興協会



イベント（文庫・飲食）

この場所を活かした様々なイベントを催していく。自然への畏敬の念を持ち、なんのために実施するのか、どのようにして持続可能なコトにしていくのか、課題解決に繋がる機会を創っていく。

保養（宿泊）

プロジェクトのコンセプトをブレずに具現化していく。蒔いていただいた種をしっかりと育み、風森が訪れた人にとって心の拠り所となるように。

複数のプラットフォーム

久米島での存在感（学童）

観光だけではなく、離島久米島が目指すべき方向性は、かつて土地に在った「人と自然の良い関係性」を「過去の文化」から抽出し、現代の文化と生活に落とし込み、具体的で持続可能な地域モデルを築くコトにある。風森が発信地となる。

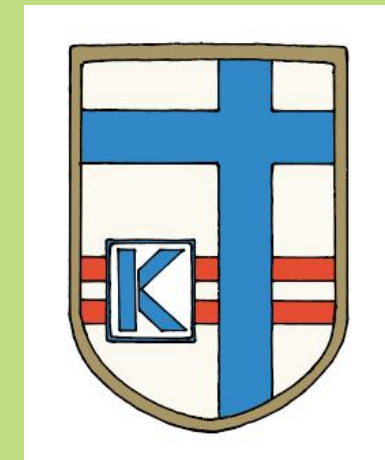
シームレスなオンライン/オフライン体験

現地でリアル体験することはもちろん、ここを訪れたかのような体験もできるようにオンラインで繋いでいく試みも始めている。



風森ブランド

サステイナブルの紋章



久米島町が推進する風森プロジェクトは、自然への畏敬の念を持ち、100年先の子ども達に手渡せる島の環境を真剣に考え、「古きものから大切なことをすくい、新しきものと結びつけ持続可能なコトを築いていくこと」と言える。

お世話になった方 TOP3



長濱 光秀氏
久米島町 PJ推進課

所属課の担当者であり、
3年間色々とサポートを
してくださった方。



渡辺 信介氏
建築家

運営法人の代表であり、
彼との出会いあつての今。
大変お世話になっている方。



堀野 富洋氏
陶芸家

PJの発起人であり、
統括責任者として種を
蒔いてくださった方。

任期を終えた今

あっという間の移住4年目

振り返れば濃すぎる時間を過ごしてきた。
毎日が冒険のように“今”を生きている。

定住する理由はここにある

このプロジェクトによって未来に手渡せる
コトが遺せるのであれば、志事としてあら
ゆる手段を通して関わり続ける。

これからの道

「新たに切り拓く。」
得意なコトを伸ばし、枠の外にある可能性
を引き出していく。



風森との接点



HOME PAGE

www.kazenokaerumori.com
運営法人についてや
ブログなどで支援者や
企業向けに発信を行なっている。



FACEBOOK

@kazenokaerumori
最新情報や告知など詳細を
記し、関心のある方々へ
発信を行なっている。



INSTAGRAM

kazenokaerumori
できるだけリアルタイムで
様子を発信し、
FB同様の発信を行なっている。

お問い合わせ 連絡先

一般社団法人帰風舎
法人所在地＝風の帰る森
久米島町字銭田1141番地3

電話番号

098-996-3301

メールアドレス

mail*kazenokaerumori.com

*を@に変換してください。